

「社会福祉法人による地域共生社会 西北モデル強化事業」報告会

つがる市社会福祉法人等連絡協議会 モデル実証活動報告会

つがる市社会福祉法人等連絡協議会
(事務局: 社会福祉法人つがる市社会福祉協議会)

2025年の超高齢化時代の到来を間近に控え、
県民の誰もが、地域で生まれ、地域で育ち、
地域を助け、地域で安心して老後を迎えることができる
「青森県型地域共生社会」の実現に向けて
つがる市における各種取組を推進していく
モデル地域として西北地域県民局より選定される。

つがる市社会福祉法人等連絡協議会

立ち上げ	令和4年7月14日設立総会
目的	社会福祉法人の地域連携体制を構築するとともに、「法人・社協・地域の協働による地域貢献活動」を推進し、各社会福祉法人の主体的取り組みの促進を図る
会員	市内の社会福祉法人・医師会・看護協会・自治会長連合会 民児協・行政・社協
運営	<ul style="list-style-type: none">・会員内のワーキンググループ5名での定例会を開催・総会の開催・研修会の開催
活動内容	社会福祉法人ネットワーク事業 人材確保・育成事業 社会福祉法人による地域貢献活動モデル実証事業

つがる市社会福祉法人等連絡協議会

参加法人地域団体名称

社会福祉法人潮音会

社会福祉法人柏友会

社会福祉法人印光会

社会福祉法人健誠会

社会福祉法人豊稻会

社会福祉法人富峰会

社会福祉法人睦実会

社会福祉法人緑会

社会福祉法人護心会

社会福祉法人つがる福祉会

社会福祉法人つがる市社会福祉協会

社団法人西北五医師会

公益社団法人青森県看護協会

五所川原保健所

つがる市自治会長連合会

つがる市民生委員児童委員連絡協議会

つがる市役所健康福祉部

つがる市役所健康福祉部

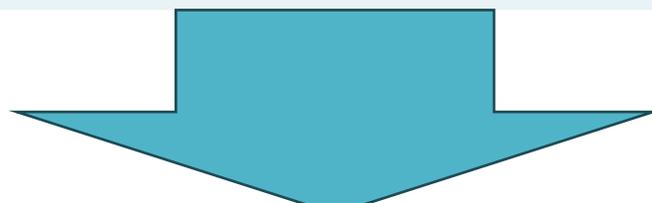
つがる市役所健康福祉部

つがる市役所総務部地域創生課

令和4年度の取り組み

つがる市社会福祉法人等連絡協議会

7月14日	設立総会・事業説明・研修会
7月29日	地域貢献活動についての研修会
10月7日	住民ニーズ調査(258サンプル、回収率51.6%)
10月15日～11月12日	1名コミュニティナースベーシック講座しまねいわみ4期をオンラインにて受講
12月8日～2月16日	住民座談会や関係団体等の聞き取り調査(5地区247サンプル)
12月21日	コミュニティナースについての研修会



地域貢献事業 1つ目の取り組み

「地域ナース」

看護職の専門性を活かしながら、制度にとらわれることなく、地域の住民と接することにより、健康意識を高めるアプローチや、病気の早期発見、機関への橋渡し等を行う。

令和4年度地域ナース活動報告

令和4年度

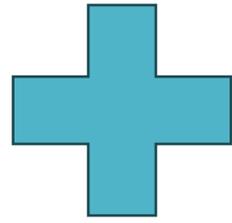
4件

活動場所: 地区サロン活動、ふれあい教室

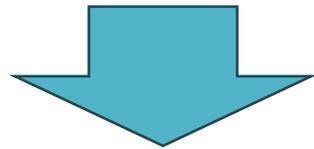
活動内容: 血圧測定、健康相談、軽体操

協力機関: 地区サロン

コミュニティナースとなる人材確保の問題



現職の看護師は、活動日の確保の問題



フリーで動けるコミュニティナースの
人材確保・増員が必要

令和5年度の取り組み

つがる市社会福祉法人等連絡協議会

5月より	コミュニティナースベーシック講座受講修了者が3人増え、地域にて活動開始
	県看護協会主催研修会 参加
12月7日	「ご近助みまもりさん」養成講座 参加
12月25日	法人内看護師1人がコミュニティナースベーシック講座受講修了者し、活動員が4人へ

令和5年度地域ナース活動報告

令和5年度

39件

活動場所：市内温泉施設、地区サロン活動

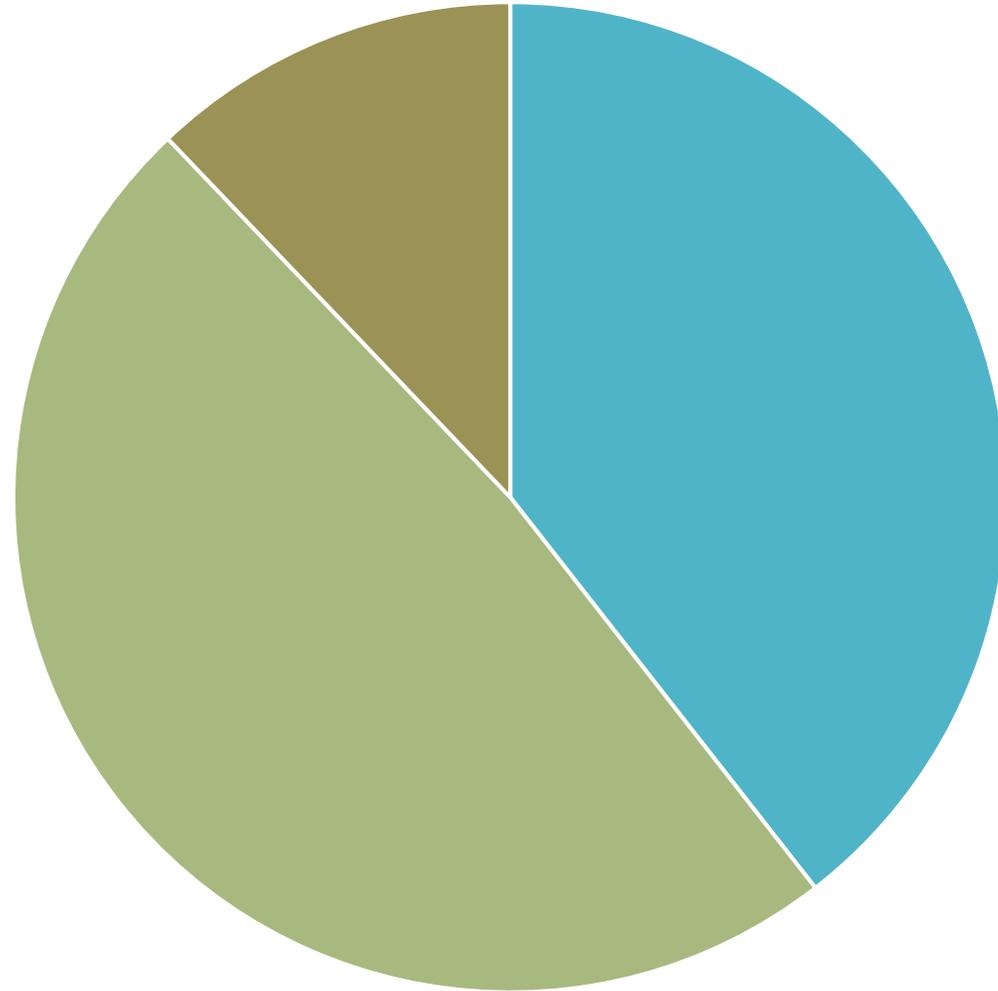
活動内容：血圧測定、健康相談

協力機関：つがる市役所（健康についての情報提供）
地区サロン





令和5年度地域ナースの認知度



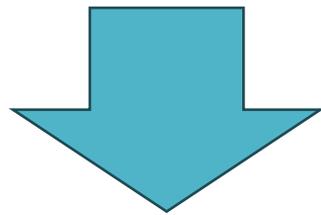
■ 1、知っている 75 人 約

■ 2、知らない 92 人 約

■ 無回答 23 人 約

地域への拡がり

サロンだけでなく
シルバークラブの集まりや催し物、
イオンのイベント等にも来てほしいとの要望



地域からのニーズ・依頼

令和6年度地域ナース活動報告

令和6年度(1月末まで)

41件

活動場所: 市内温泉施設、地区サロン活動、
認知症カフェ、イベント等

活動内容: 血圧測定、健康相談

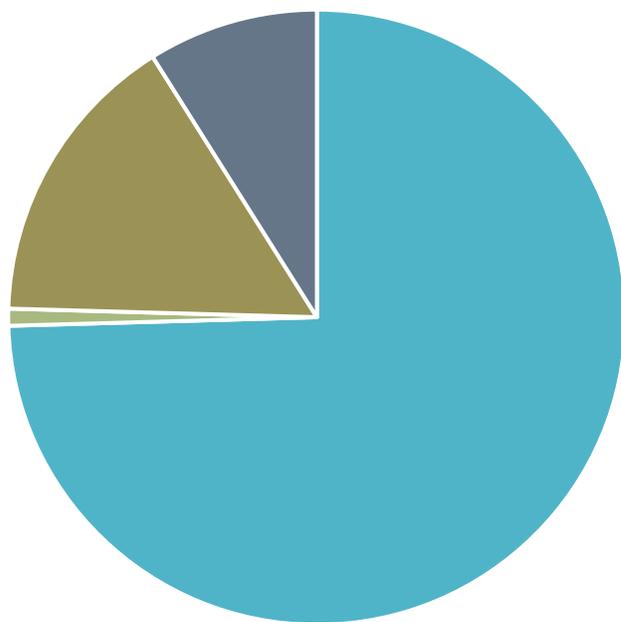
協力機関: つがる市役所(健康についての情報提供)
包括支援センター(地区内の一人暮らし者について
の
情報提供)

地区サロン



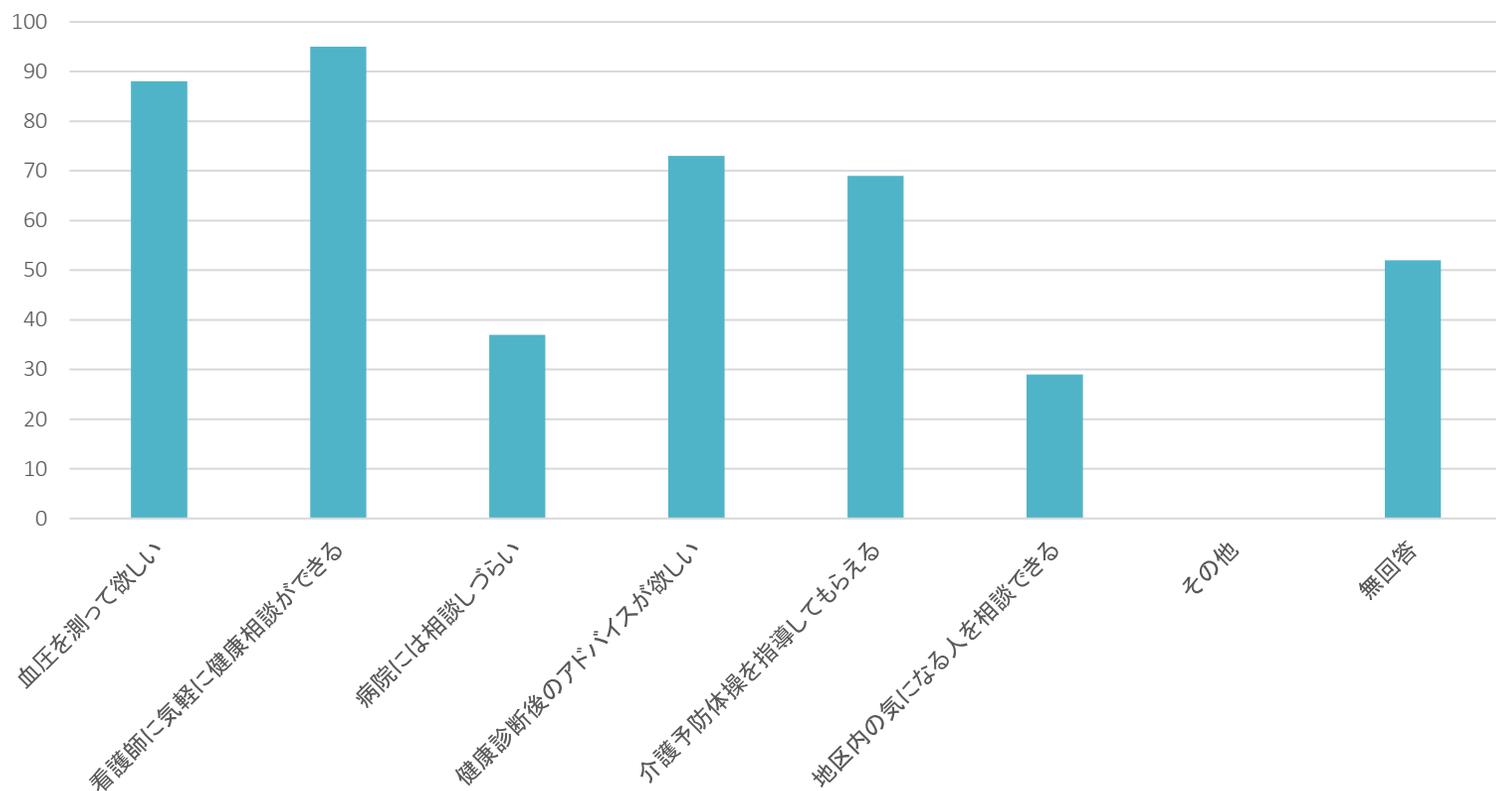
地域ナースの必要性と理由

地域ナース活動の取り組みは、地域にとって必要だと思われますか。



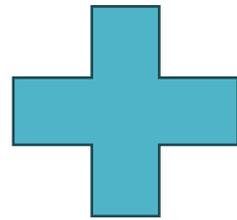
■ 必要 ■ 不要 ■ 分からない ■ 無回答

必要と答えた理由を教えてください。



今後の展開として

市役所より、地域ナース活動補助金を得ての活動



今後でも地域にでて、市民の身近なところで血圧を測ったり、健康相談や健康診断後のアドバイスをすることで、地域が健康になるよう、活動を広めていく。

地域貢献事業 2つ目の取り組み

「困りごと相談窓口」

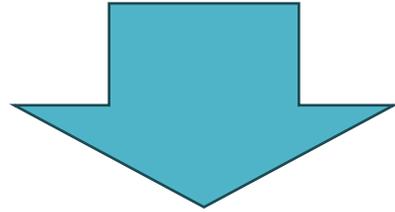
身近な窓口で分野を問わず困りごとを
気軽に相談できる体制の整備

令和4住民ニーズ調査(258サンプル)

問 「地域貢献活動」について、これらの地域に必要な活動や望む活動がある方は、すべてお聞かせください。

①社会福祉法人による相談支援	65	25.2%
②家計相談(計画・管理・実践)支援	21	8.1%
③子育て支援(サロン)	34	13.2%
④子供の居場所づくり・学習支援	57	22.1%
⑤こども食堂	28	10.9%
⑥フードバンク(生活に困っている方へ食料等無償提供)	44	17.1%
⑦認知症カフェ	30	11.6%
⑧高齢者等の集いの場	51	19.8%
⑨認知症サポーターの養成	41	15.9%
⑩ごみ出し支援	36	14.1%
⑪買い物支援	72	27.9%
⑫移動困難者に対する移送支援	76	29.5%
⑬高齢者(障害者)世帯への除雪支援	130	50.4%
⑭見守り(孤独死防止)支援	61	23.6%
⑮障害者等の職場づくり(お仕事支援・訓練)	36	14.0%
⑯地域座談会開催	8	3.1%
⑰介護予防・介護技術等講習会	31	12.0%
⑱健康意識向上に関する支援	36	14.0%
⑲その他	3	1.2%

①社会福祉法人による
相談支援が求められている。



包括的に対応できる
困りごとと相談の窓口を作ろう。

令和5年度の取り組み

つがる市社会福祉法人等連絡協議会

7月18日

総会にて困りごと相談窓口事業説明・開設

12月7日～2月21日

住民座談会や関係団体等の聞き取り調査

令和5年度困りごと相談 報告

5年度相談件数

26件

相談内容 : 生活困窮、家庭問題、金銭トラブル、
人権問題、詐欺 等

繋いだ機関: 警察、行政相談、法律相談、司法書士
保健師 等

令和6年度困りごと相談 報告

6年度相談件数(1月までの件数)

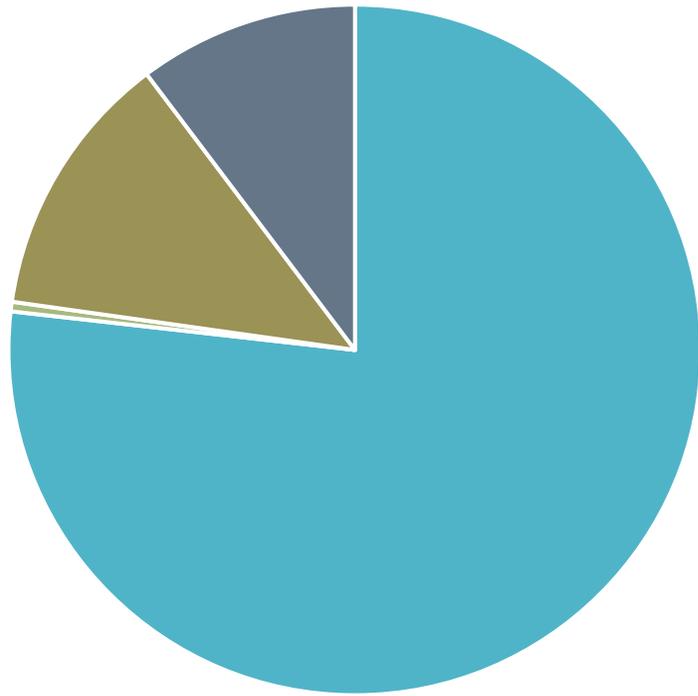
47件

相談内容 : 障害者夫婦世帯や一人暮らしの調理・不安、生活困窮、除雪 等

繋いだ機関: 警察、ケアマネージャー、行政相談、等

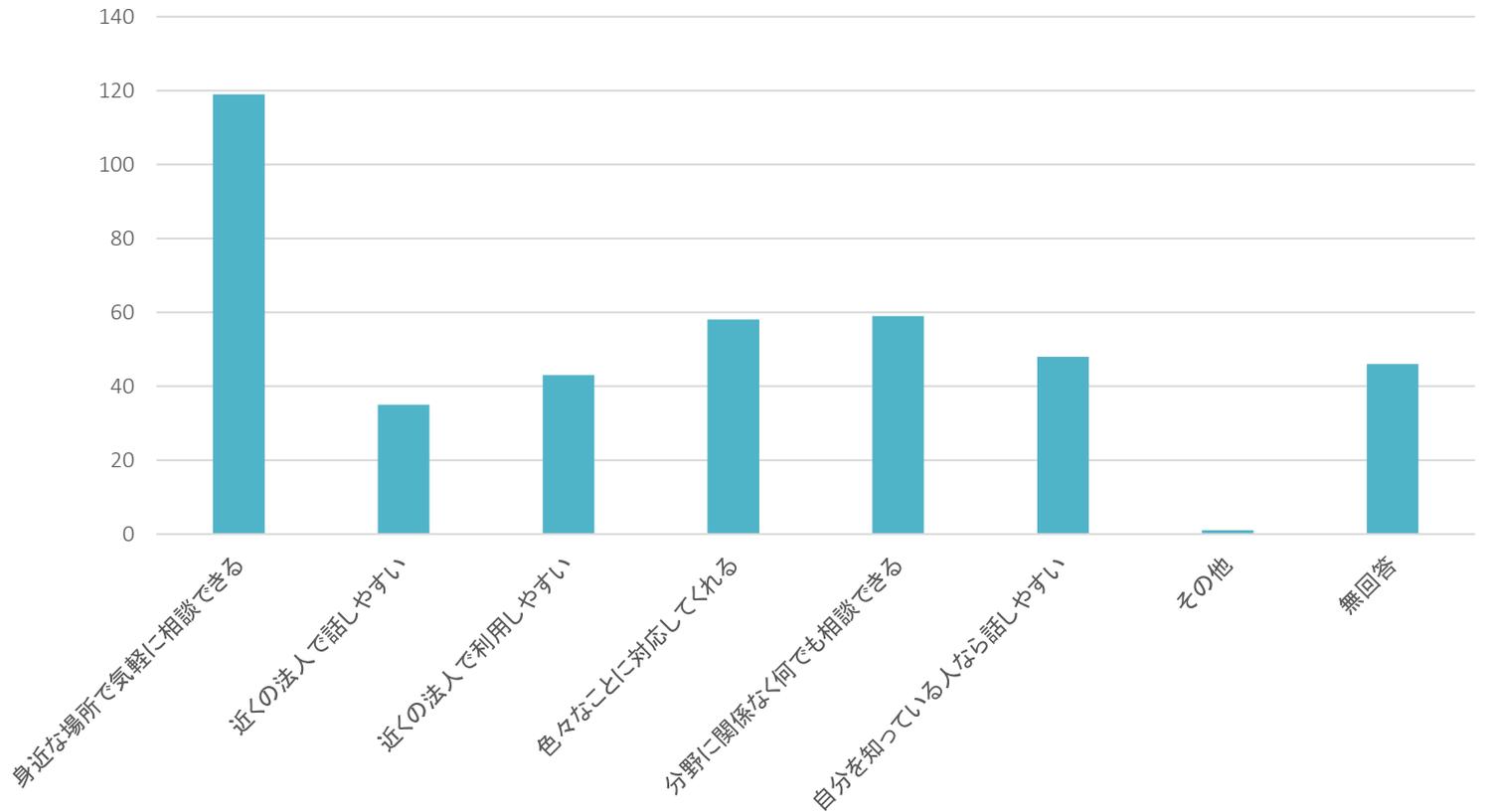
困りごとと相談窓口の必要性と理由

困りごとと相談窓口の活動は、地域にとって必要だと思われますか。



■ 必要 ■ 不要 ■ 分からない ■ 無回答

必要と答えた理由を教えてください。



今後の展開として

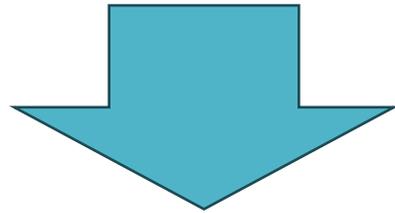
各社会福祉法人が窓口で、利用者は、身近な社会福祉法人で相談することができ、社会福祉法人も、自法人で対応できない相談は他法人と一緒に対応できる体制が有り、今後も法人同士の協力していく体制が維持できる仕組みが持てた。

地域貢献事業 3つ目の取り組み

「子ども食堂・多世代交流」

つがる市内の社会福祉法人が協力して
地域の様々な人が、交流できる機会を
確保

地域の社会福祉法人より
子ども食堂を開催したい。



社会福祉法人等連絡協議会
の事業として市内に広げてい
こう。

令和5 ～つがるの食がつながる～ 子ども食堂



主催：社会福祉法人緑会

目的：つがる市に在住する人、誰もが気兼ねなく交流できる居場所を作り、地域で子どもを見守り支える仕組みとなる

内容：伝承遊び（あやとりやコマ回し、けん玉等）
郷土の食材を使用した料理を大勢で楽しむ

協賛：つがる市社会福祉法人等連絡協議会
つがる市夕市の会・十三湖産大和しじみ
（株）木村牧場のつがる豚
木造高校の学生ボランティア

～もちつきをたのしもう～ 「多世代交流」



主催：社会福祉法人豊稻会
（認定こども園しげた保育園）

**目的：地域の法人が連携して、子どもから高齢者
までの地域住民が、「餅つき」「伝承あそび」
等を通して楽しい時間を共有し、多世代交流を
深め、地域貢献を目指す。**

**内容：保育園児の遊戯の披露、一緒にゲームあそび
歌・手遊び・餅つき・会食**

共催：つがる市社会福祉法人等連絡協議会



もちつき会 (多世代交流) しげた保育園

たのしみに
ありがとうございます
なると

ありがとうございます
えま

ありがとうございます
りさ

餅つきやゲームで多世代交流

おいしい
えま

おいしい
りさ

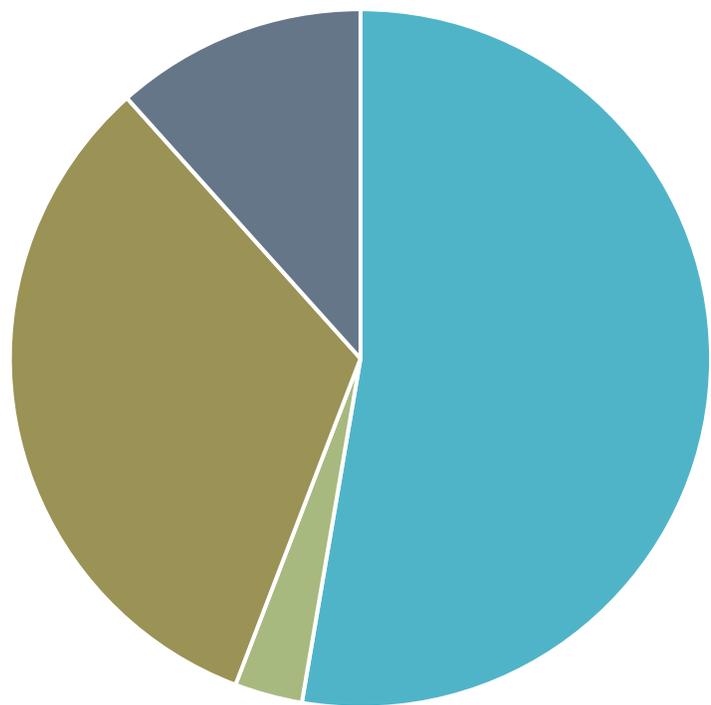
たのしかったよ
えま

またきてね
りさ

稲垣地区のみなさん、ありがとうございました！

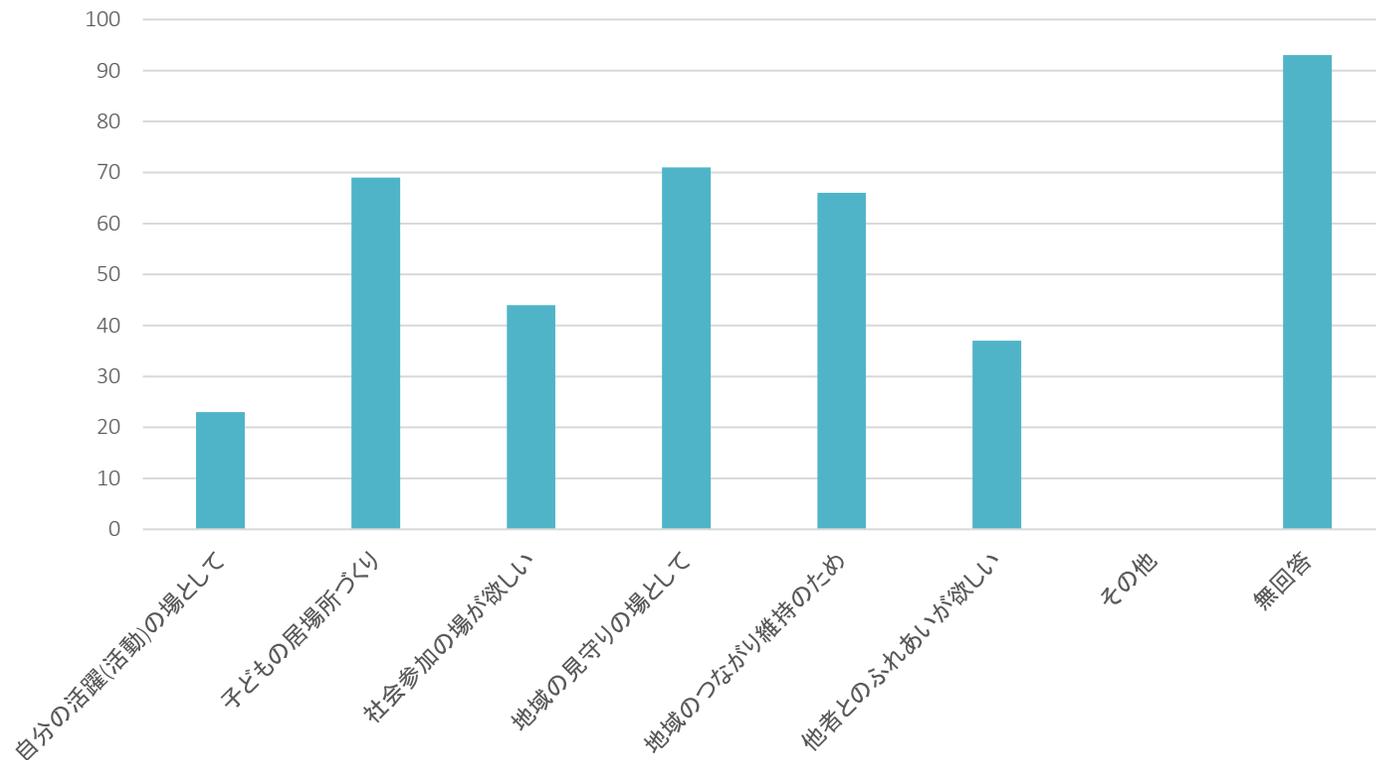
「子ども食堂・多世代交流」の 必要性と理由

子ども食堂や多世代交流は、地域にとって必要だと思われますか。



■ 必要 ■ 不要 ■ 分からない ■ 無回答

必要と答えた理由を教えてください。



今後の展開として

令和2年頃から新型コロナウイルスの蔓延による、密集を避ける傾向のため、多世代交流が減少していたが、5類感染症移行になっても減少したままであった。これらの活動により、地域で多世代交流が活発におこなっていけるよう、また、このような活動をおこなうことで、元気になってくれるよう活動していく。

地域貢献事業 4つ目の取り組み

「認知症カフェ」

つがる市内の社会福祉法人が協力して地域の様々な人が、交流できる機会を確保し、認知症の予防、知識を持つ

令和6 もりた de つながるカフェ



主催：森田地区の社会福祉法人

目的：子どもや地域住民、専門職の人たちなど、誰でも気軽に集まれ、地域での助け合いや思いやりの心の大切さを学び、地域がつながる場所づくりを目的とする。

内容：認知症予防体操や交流すると共に、地域住民の居場所づくりや多世代交流を行う。

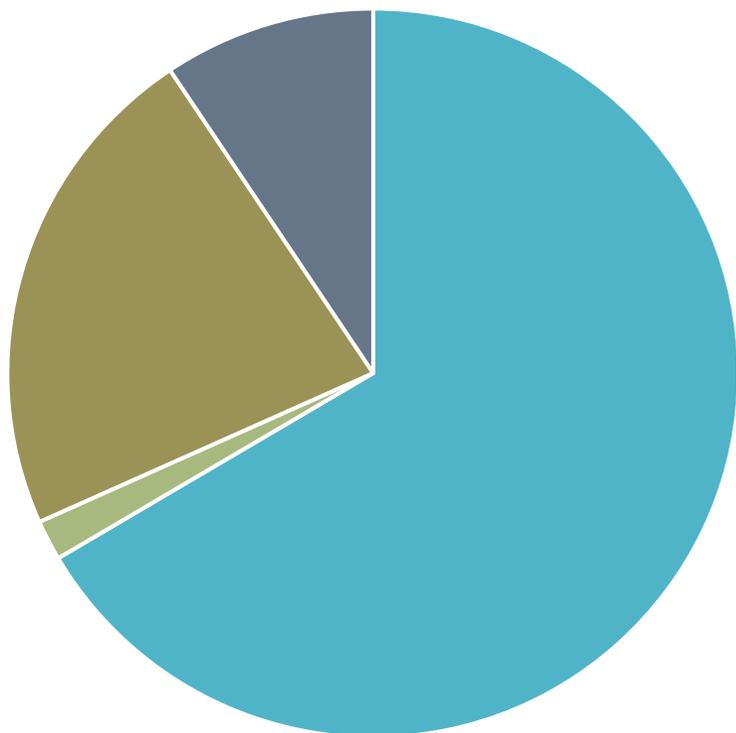
協力：地域包括支援センター
青森県立森田養護学校





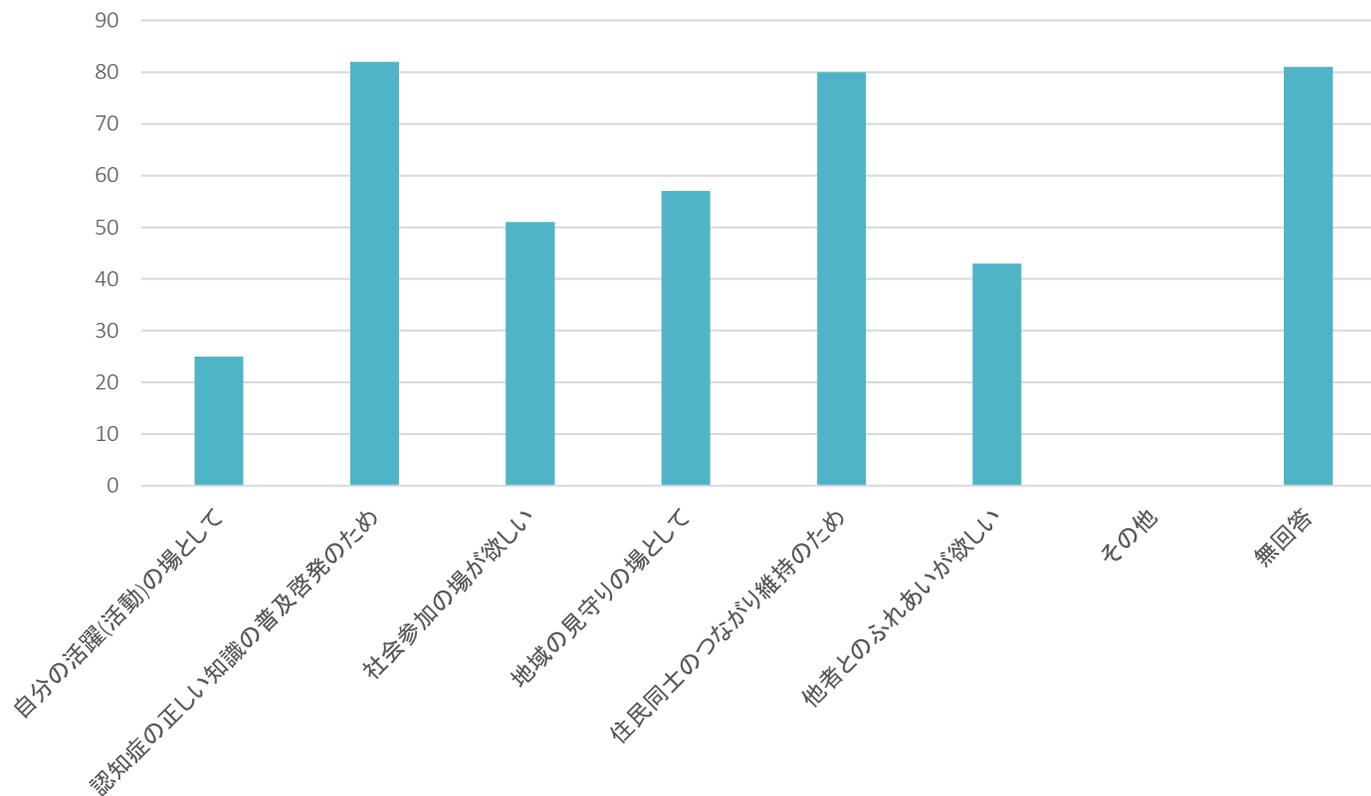
「認知症カフェ」の必要性と理由

認知症カフェの活動は、地域にとって必要だと思われますか。



■ 必要 ■ 不要 ■ 分からない ■ 無回答

必要と答えた理由を教えてください。



今後の展開として

つがる市のいろいろな人がいろいろな形で集まり交流できる場が、市内に広がりを見せている。今後も続けていき、市内全域で、地域でつながる居場所づくりの広がりが、住民を元気にできるよう活動していく。

つがる市社会福祉法人等連絡協議会
(事務局:社会福祉法人つがる市社会福祉協議会)